



2014年3月17日

会員卓話

私の履歴書

荻田吉夫 会員

私にとって人生最大の決断は東大2学年の時に科学の道を捨てて外交官を目指すことを決心し、理一から教養学科国際関係論科に移籍したことである。この決断は奏功して外交官試験に合格、1959年卒業とともに入省、同年秋にはまだ戦後の混沌と貧困の中の日本を後に超先進国英国へ赴任した。オクスフォード大学での2年間の研修、続いて在ジュネーブ代表部での2年間は今思い返しても人生のハイライトの一つであった。

その後、韓国、カナダを皮切りに、在外と本省の勤務を繰り返す、フランス公使、シカゴ総領事、アメリカ公使、デンマーク大使、ニューヨーク総領事(大使)など、主として欧米中心の外交官時代を過ごした。

1990年、式部副長として3年間宮内庁に出向

した。初仕事は平成の始まりを彩る即位の礼であった。1996年再び命を受けて宮内庁に移り、7年間式部官長を務めた。その間、英国、オランダ、デンマークなど17カ国の外国ご訪問に随行、数多くの国公賓の接受、新年祝賀、歌会始、園遊会、大使の信任状奉呈式等々、多くの得がたい経験をさせていただいた。

2003年。退官した年にちょうど六本木ヒルズが落成式を迎えたことがご縁となり森ビル特別顧問として就職、現在に至っている。何度か大きな環境の変化を経験したが、常に私がかつて選択した外交に関わる任務に携わることができたことを幸せに感じている。



私の業界・仏教界

石上和敬 会員

私は浄土真宗の一寺院の住職を務めております。日本全国には約7万の伝統仏教の寺院があり、宗派ごとに見れば、1万以上の寺院を包括する宗派も複数存在します。これはかなりの存在感と言えましょう(たとえば、コンビニ業界最大手のセブンイレブンの店舗数が1万4千強と聞いています)。寺院の数は多いのですが、問題は適正配置になっていないことです。

明治以来、農村部の人口が都市部に大量に移動しましたが、寺院の移転というのはそれほど簡単なことではありません。したがって、一般論としては、農村部では人口流出に伴い寺院運営が厳しくなっているのが実状です。一方、都市部の寺院では、一つの寺院で受け

入れられる檀家数には限りがあることなどから農村部からの流入人口に十分な対応ができていませんし、また、都市部に寺院を新設するというのも難事業です。結果として、都市部においては、寺院とのご縁が少ない方々が増えています。

このような現状に鑑み、各宗派では、寺院と接点の少ない特に都市部の方々のご縁をどのように結んでいったらよいか、様々な取り組みが真剣に模索されています。

以上、昨今の仏教界の現状と課題の一斑についてお話しさせていただきました。

